

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月13日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から教育課程の統一と見直しを図り、生徒が主体的に取り組む授業作りを行う。	生徒一人ひとりの障害の状況や発達段階を的確に捉え、新学習指導要領に基づいた新日課表での教育と評価を行いカリキュラムマネジメントを推進していく。	①授業アドバイザーや外部講師からの助言、校内外の専門職によるアセスメント等により、生徒の実態に合った、主体性を引き出す授業作りをする。また授業評価や効果的な振り返りの方法を検討する。 ②HRや授業での取組、チャレンジタイムをもとにキャリアパスポートを作成し、生徒の自主性を育む。	①生徒の実態に合った授業を実施することにより、生徒の主体的な行動が増えたか。授業評価を次の授業作りにかすことができたか。 ②授業や新日課のチャレンジタイム等を通して、生徒が取り組む内容を自分で決めたり、学習の記録や振り返りをキャリアパスポートに記したりすることができたか。	①授業アドバイザーと連携し、段階的な支援方法の検討、生徒の課題克服に努めた。目標設定や振り返りができるシートの見直しを行い、映像を見ながらアドバイザーの助言を受け、授業改善につなげた。また外部教育機関と連携し、職業の振り返りシート、ICTの活用についての助言を受け、生徒支援に結びつけた。 ②チャレンジタイムでは、学習内容を生徒が選択できてきた。学習記録も自主的に記入している。授業の振り返りシートには学習内容や目標達成具合を記入できている。キャリアパスポートは、各部門で共通理解をもてた。写真や作品で活動の振り返りを行い、家庭と学習の様子を共有できた。	①授業改善に向け、アドバイザーから多くの視点で助言をもらいたい。職業での振り返りシートは、統一した書式があるとよい。授業の教材を共有できるようなシステムを整理していく必要がある。授業評価は部門としての書式やシステムの統一が必要である。外部教育機関との連携は今後も継続していきたい。 ②チャレンジタイムでは、生徒が意欲的に取り組み、達成感を得られるような内容を考えていくことが課題である。キャリアパスポートは、部門内で統一した形になっていない。今年度の取り組みから、生徒にわかりやすく、無理のないものにしていく必要がある。	《保護者アンケート結果》 1 楽しく学校に通っているか。 思う・ほぼそう思う 88.3% 2 学習内容は適切でわかりやすいか？ 思う・ほぼそう思う 85.9% 一貫性のある教育をおこなっているか？ 思う・ほぼそう思う 86.9% 《学校運営協議会》 授業アドバイザーは、経験を積んだ教員が助言をすることで、教員を支えている。今後AIによる学習の個別最適化が進むことが予想される。生徒集団の共同的な学習を踏まえながら、個別最適な学習を行っていくこととなる。そのためにはICTの活用がカギとなる。	・授業アドバイザーの助言に基づく授業計画、授業実施後の振り返り、また外部教育機関との連携により、生徒が主体的に学習に取り組むことができた。 ・授業評価については、生徒自身が行う目標設定や振り返りのできるシートを活用し、次の授業づくりにつなげた。 ・チャレンジタイムでは、学習内容を生徒が選択できるような環境を整えることで、主体的に学習に取り組む様子が見られた。今後も生徒が選択できる幅を広げるとともに、学習の積み重ねを記録できるよう、キャリアパスポートの作成につなげていきたい。	・次年度も校内外の人材活用、他機関との連携を通し、またICT機器の更なる活用を模索していくことで、より良い授業づくりにつなげていく。 そして、集団学習と個別学習をバランスよく行っていく。 ・学習内容、身についた事柄を記録し、蓄積することで、一人ひとりのキャリアパスポートにつなげられるようにする。
2	生徒指導・支援	生徒一人ひとりの人権に配慮し、個別の教育的ニーズに応じた指導・支援を計画的、組織的に行う。	校内外の多職種との連携により、多様化する生徒の実態に合わせた支援方針や授業内容を検討していく。	①担任と支援連携グループ間等での日常的な情報共有、また定期的、臨時的に校内外の専門職、外部機関とケース会議を開き、有効的な生徒支援を行っていく。	①相談担当、校内専門職等が必要に応じ学年会に参加することで、効果的な生徒支援へつなげることができたか。また、外部機関、ブロック内専門職等とケース会議を行い、能動的に生徒支援を行えたか。	①相談担当、専門職、担任との話し合いでニーズを共有し、保護者との面談やケース会議を行った。生徒支援マニュアルの内容検討により、効果的な生徒支援を行える体制づくりに取り組んだ。A部門は校内専門職との連携、外部専門職の巡回相談等で自立活動や摂食等について助言を受け、生徒の支援につなげた。	①相談担当、校内専門職が学年会に参加することはできなかったが、日常的に学年、クラスとの連携、また生徒支援会議での情報共有、協働により効果的な生徒支援ができた。今後も継続していく。A部門では、今後も外部専門職の相談を時期と対象学年を考慮して実施し、また教員向けの研修も実施していきたい。	《保護者アンケート結果》 個別教育計画に基づいた教育活動か？ 思う・ほぼそう思う 90.6% 個別に相談しやすいか？ 思う・ほぼそう思う 83.5% 適切な生徒指導を行っているか？ 思う・ほぼそう思う 87.0% 《学校運営協議会》 歯科医師、他校の専門職等積極的に導入している。今後も他機関との連携で教育を支えてほしい。	・相談担当、校内専門職、担任が連携をすることで、効果的な生徒支援につなげることができた。また生徒支援会議での情報共有、協働、マニュアルの内容検討により効果的な生徒支援につなげた。A部門は他機関や校内外の専門職の助言を生徒支援に生かすことができた。今後も組織的な支援を行っていく。	・担任と支援連携グループ間で、定時、臨時的なケース会議を今後も行っていくことで、生徒の情報共有を行っていく。 ・外部機関や医療機関、他校の専門職とも連携を取り、必要に応じて職員研修を行うことで、職員の専門性向上と、適切な生徒支援につなげていく。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら選択、決定できる進路指導・支援を行う。	自立と社会参加に向け、将来の生活を生徒自身がイメージできるよう、1年次から系統的なキャリア教育を推進する。	①1年次のケース会議の時期を早め、多職種の視点を入れたアセスメントを行い、生徒が自身の将来をイメージできるような授業や支援を実施する。 ②生徒が進路先をイメージできるよう、	①進路選択に向けた適切なアセスメント、個別教育計画のもと、生徒自身が卒業後に行いたいことをイメージできるようにになったか。 ②30か所以上の事業所の情報を収集し、面談等で実際に活用するこ	①生徒の実態や相談内容に合わせたケース会議が開かれ、進路担当者も参加することで生徒情報の共有をした。相談に応じ、外部機関が作成している資料をアセスメントに活用した。 ②生徒の実態にあった進路先を選択するため、1年次からの進路先見学を勧め、	①より多くの生徒が活用できるような進路選択ツールを検討していく。また外部機関が作成しているアセスメント資料等についても教員間で共有し、生徒支援に役立てていく。 ②保護者へ進路先の見学を勧める際には、教員が生徒の実態に合った進路先の情	《保護者アンケート結果》 一人一人に応じた進路指導が進められているか？ 思う・ほぼそう思う 84.7% 自立と社会参加のための力は伸びているか？ 思う・ほぼそう思う 81.9% 《学校運営協議会》 生徒が将来の生活をイメージできることは大切である。生徒が戻っていく社会	・早めのケース会議や保護者による進路先見学、個別教育計画を通し、生徒が主体的に進路選択できるような取り組みを行うことで、生徒が将来をイメージすることにつながった。進路学習では地図アプリの活用や、タブレットを使った学習で、	・生徒が進路先をイメージし主体的な進路選択ができるよう、担任、進路担当者が日ごろから連絡を密にする。進路学習では、進路選択ツールの更なる活用を行っていく。 ・進路先選択に向けた適切なアセスメントを行う。そのためにも、早め

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月20日実施)	総合評価(3月13日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
			関連する事業所の映像収集、タブレットによる閲覧、スマートフォン等で事業所情報が確認できるようにする。また実際の進路先をイメージできるような授業を行う。	とができたか。事業所情報は最新のものを活用し、実際の進路先をイメージできるような授業を行えたか。	1年全員の保護者が見学を行うことができた。実習激励会、報告会を通し、進路先のイメージを高めることができた。進路学習を通し、地図アプリを利用した事業所情報閲覧の運用を開始した。1年生の授業では、企業と福祉サービスそれぞれの特徴や求められている力等について映像を交えて紹介した。他の仕事の動画をリクエストする等生徒からの反響があった。	報、知識が必要であり、担任と進路担当が打ち合わせを行い、1学年末の面談前に情報を整理しておく。地図アプリに不具合が生じたケースがあり、安定的な閲覧に向け、定期的に更新していく。次年度も映像の収集に努め、より多くの企業、事業所を紹介できるようにする。	について理解しておくことは大切である。地域によっては高齢化が進み社会の発展のためにも、このような場に帰っていくことを踏まえ、力を身につける必要がある。カリキュラムも身につけたことで、何ができるようになるかを踏まえる必要がある。	進路先の情報を得られるよう環境を整えることで、進路先のイメージをもつことができるようになった。今後も、より多くの生徒が活用できるような進路選択ツールの活用をしていく。 ・生徒の主体的な進路選択に向け、外部機関作成のアセスメント資料を教員間で共有し、進路先に関する教員の専門的な知識を高めていきたい。	の進路先見学を勧め、多くの事業所情報を面談等で活用していく。	
4	地域等との協働	インクルーシブ教育推進を図るために、校内教職員・保護者・地域の理解促進、地域の諸学校、諸機関への発信、貢献活動を行う。	校内外の資源を活用し、教育活動を展開することで、「地域に開かれた学校」を実現し、本校の教育への取り組みを地域へ発信していく。	①地域のセンターとして、地域の教育力向上へつなげる。またその取組を通信や地域の諸会議で伝えること、特別支援学校の役割を地域に発信していく。 ②教育活動や、学校での最新情報、センター的機能に係る情報をHPや学校だより等で定期的に発信していく	①相談支援班からの便りを定期的に発行した。地域の会議や学校からの便りに、校内行事、巡回相談の実施状況等を載せた。地域の会議での相談が巡回相談につながり、相談数が13校に増えた。 ②本校の取り組み等を学校だよりで定期的に発信し、HPにも掲載した。夏季公開講座では、卒業後の進路決定に向けたテーマで小中学校教職員、保護者等を対象とした講座を実施した。外部より75名の参加があった。地域との交流を目的としたポッチャ教室では、地域より15名の参加があり、部門間交流を含め、交流することができた。	①相談支援班からの便りは今後も継続していき、保護者の知りたいことを便りに反映させていく。巡回相談を実施する学校が固定されているので、より広く取り組みを周知していく。 ②次年度も学校の様子を様々な形で地域へ発信していく。個人情報の取り扱いについては確認をし、より早くタイムリーな掲載を心がけていく。公開講座は、対象者を分けて講座を企画することで具体的に内容が充実したものができるかと考える。パラスポーツ等の教育活動を通じ、地域との交流を今後も継続していきたい。	《保護者アンケート結果》 巡回指導等、地域貢献がでているか？ 思う・ほぼそう思う74.1% 情報提供ができていますか？ 思う・ほぼそう思う90.6% 《学校運営協議会》 巡回相談、センター的機能については、わからないというアンケート結果がある。情報が周知されていないようなので、対応が必要である。PTAの活動、学校運営協議会を通し、学校の取組を保護者間で共有できなかったことが残念である。学校でのパラスポーツ教室をきっかけとして、地域でもポッチャを行うようになった。高齢者には丁度よいスポーツであり、学校で紹介してもらいありがたかった。	・地域の会議に出席し、巡回相談の実施状況を伝えることで、他校からの相談件数が増えたのは評価できる。また毎月発行する相談支援班からの便りやホームページにより、保護者へ本校の取り組みや様々な情報提供を行った。 ・保護者アンケートでは、巡回相談での取り組み、センター的機能については周知されていないところがあり、今後の課題となる。 ・地域に開かれた学校づくりに向け、公開研修会、パラスポーツは継続していきたい。	・相談支援班からの便りは、今後も定期的に発行し、様々な情報を提供していく。センター的機能、巡回相談等本校の取り組みも紹介し、校内の相談にもいかせるようにしていく。また、情報発信については、学校からの一方的な発信にならないよう、保護者のニーズ、知りたいことを把握し、伝えていくことも必要である。 ・地域の会議へ出席した際は、巡回相談についての情報を伝え、幅広く支援を行っていただけるようにする。	
5	学校管理 学校運営	学校運営の組織的な体制と安全・安心な学校作りのための体制の構築を図る。	・組織的で効率的な業務遂行の定着を図る。 ・防犯、防災マニュアルの整備と活用を通し、実効的な訓練の充実を図る。	①チャットや、オンライン会議等の活用により、業務の効率化を図る。 ②不審者侵入時や災害発生時の実際の動きを想定したマニュアルの見直しと周知方法の工夫をする。また訓練設定を工夫し、実効性のある訓練を全校で行う。	①会議で検討する内容を事前にチャットで共有したり、オンライン会議を取り入れたりする班、グループが増えたか。 ②不審者対応や防災マニュアルが反映された効果的な訓練ができたか。また訓練において、職員、生徒が自ら考え動くことができたか。	①オンラインでの会議や授業を行った。3年生対象にオンラインでの面接にも取り組んだ。各班やグループでチャットを積極的に活用することが定着してきた。日中の時間を有効利用し、事務作業をする教員が見られるようになってきた。 ②学期ごとの避難訓練、毎月のシェイクアウト訓練、全校引き取り訓練、不審者対応訓練を実施した。災害想定に変化をつけた避難訓練や毎月のシェイクアウト訓練、学期ごとの不審者退避訓練を行い、職員、生徒が自発的に安全行動を取れるようになってきた。	①年度初めに、各グループ、班でチャットグループを作成し、簡単な報告事項や事前に会議情報共有していく。日中の時間の有効活用、業務分担と整理を今後も行い、働き方改革を進めていく。 ②緊急時の判断に迷いが出ることがあり、一覧性の高いマニュアル作りが必要である。また荒天時や低温時に大災害が発生した場合の対応について、さらに検討が必要である。	《保護者アンケート結果》 安全な学校生活を送っているか？ 思う・ほぼそう思う91.6% 感染症対策を含め、健康管理は適切か？ 思う・ほぼそう思う89.3% 登下校は安全か？ 思う・ほぼそう思う90.5% 教職員からの連絡や説明、対応は適切か？ 思う・ほぼそう思う86.9% 《学校運営協議会》 安全に対する取組について、保護者からの評価はとても高い。不審者や強盗、自然災害、ミサイルのアラート等もこれから対応が必要となるかもしれない。危機管理は大切である。	・オンライン会議やチャットでの連絡が定着し、効率的な業務遂行ができつつある。 ・安全に対する取り組みについては、保護者アンケートにもあるように、評価が高い。学期ごとの避難訓練、毎月のシェイクアウト訓練や引き取り訓練、不審者対応訓練は、その都度発生状況を変えたり、抜き打ちで行ったりすることで、実効性のある、生徒自ら考え動く訓練が行えた。今後も実効的な訓練を行い、緊急時に備える意識を高めていく。	・年度初めに、班やグループ等でチャットグループを作り、連絡・報告システムを作っていくようにしていきたい。 ・今後も実効性のある訓練を実施し、生徒自らが考えて動けるようにしていく。また緊急時対応については、様々なことを想定し、新たなマニュアルの作成を検討するとともに、既存のマニュアルについても改訂も進め、より活用しやすい工夫が求められる。